令和８年度第２回和歌山市廃棄物減量等推進審議会　記録

日時：令和８年１０月２８日（水）午後２時～午後３時１５分

場所：和歌山城ホール　４階　大会議室

事務局から開会あいさつ

局長あいさつ

委員、市（事務局）出席者紹介

資料確認

（会長）

前回７月に当審議会が開催され、同時期に、環境省から不要となった衣類の回収、リサイクルを強化、徹底しましょうという方針が出されました。そのような国の施策を見ながら、世の中の動きに対応しつつ後追いにならないように、そのような方針も取り込みながら積極的に第３次基本計画を良いものにしていきたいと思います。さまざまなご意見を頂戴したいと思います。

早速、議題１について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

（議事１　（１）第３次和歌山市一般廃棄物処理基本計画の策定　①ごみ編　事務局担当説明）

（会長）

ありがとうございました。それでは議事１について、ご意見、ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。まずは１～２ページ目についてご意見はありませんか。

（会長）

資料２で、４つのエリアで顕著な違いがどこにあったか、どのように整理されているか、ペットボトルは戸建地域②が多い、紙おむつについては戸建地域①が多い、ゴム類が戸建地域①で多い等の特徴的な違いは、継続的なものか、この年だけの特徴なのか、傾向が分かれば教えてください。資料２の３ページの①紙のところで、マンションが他のエリアより２倍くらい多いことについて、庭に出せない、束ねて置いておくスペースがない等の理由が影響しているのか等、把握していれば教えてください。状況に対して行政側がどのように支援の手を差し伸べられるか、データから得られた状況と対策について、エリアごとの特徴的な課題等、きめ細やかな対策を講じたいという思いがあるのかなと思いますが、今後の方針や考えを聞かせてください。

（事務局）

エリアごとの対策については、現段階でお答えすることは難しいです。

（事務局）

マンション、戸建地域等のエリアごとの比率等、今回の調査で分かりました。

今後の対策としては、ホームページ上で動画で視覚的に分かりやすく分別方法やごみの出し方等の啓発を追加していきたいと考えています。

（会長）
急にデータを読み取り、戦略につなげることは難しいと思いますが、せっかくデータを取ったので、内容を活かしながら、エリアごとの特徴を読み取りながら、対策につなげてください。同じように動画を配信するにしても、住んでいるエリアの物理的制約等によって対策をとれるかどうかが決まるのであれば、なかなか進まないと思います。貴重なデータだと思います。
（会長）
３ページから４ページについてはいかがでしょうか。
（会長）
皆さんのアンケートを受けてのことですので、大きい反対意見はないと思います。基本理念については、上段に位置づけられる、住民や事業者への強いメッセージであるので、地域の資源（たから）を生かして、未来につなげましょうというメッセージについては、重点施策をリユースの促進を強く位置づけるのかと読めます。
基本計画にそった基本方針をリンクして、重点施策に関して強くメッセージを発信することに期待を込めます。
（会長）
５ページから８ページについてはいかがでしょうか。
（会長）
資料２の６ページ目の中核市の平均よりも少ない自治体と多い自治体の違いは何だと思いますか。
（事務局）
各中核市において、資源をリサイクルしている品目が違うことと、ごみを有料化されているかどうかの違いが大きな要因だと考えています。
（会長）
端的に示すデータは出せますか。説明を聞くと、そうなのかなと推察はしますが、裏付けとなるデータを目にしたことがないので、例えば取組み施策の一覧と分別の種類を自治体ごとに並べて整理して、明らかに有料化を導入している自治体は中核市のなかでも排出量が少ない等が可視化された情報はありますか。
（事務局）
毎年、国の調査結果は公表されています。その結果をまとめた資料は作っていきたいと考えます。
（事務局）
読み手となる市民等は個人でデータを取りにいくのが難しいと思います。なにゆえに和歌山市が粗大ごみの有料化等にシフトしているのかが伝わるような説得力のある情報データは、紙面にも限りがあると思いますが積極的に開示していけばよいと思います。
（委員）
新たにごみ焼却量を目標設定するということですが、そのための手段や、現状燃やしていたものをリユースするための場所を作る等、数字をあげるだけでは、どうするのか伝わりづらいと思います。市としては、取組みについてはどう考えて設定しているのでしょうか。
（事務局）
資料１の６ページの下段で示している通り、今後どのように焼却ごみを減らしていくかについて

考えていることは、リユースの促進、民間のリユース地点の利用を促進するため市民に啓発することに重点をおきたいと考えています。また、審議会でも意見を頂戴し、粗大ごみの有料化の早期実現、資源化を見込めるプラスチック等、資源化できるものを増やす等により、焼却量の削減に努めていきたいと考えています。

（会長）

資料１の１ページの円グラフから 15%削減の見込みをどのように考えたのか。厳密にポテンシャルを積み上げて設定するのは大変難しいと思いますが、調理くずに対しては、他の自治体の施策の効果を見て、これを導入すると毎年何%ずつ減る、資源化できないプラスチック類については、購入量が毎年何%削減していく施策を実施することで何%削減する、これらを積み上げると、だいたい 10 年で 15%削減できます、というように現状と施策のポテンシャル、目標が連動していると美しいと思います。今からパブリックコメントに向け対応するのは難しいと思いますが、定性的でも、現在の排出量グラフデータ、６ページ下の取組み、数値目標がこのような考え方につながっていることを分かりやすく示せるよう目標と手段の関係を可能な範囲で整理しても良いと思います。

（委員）

この 10 年くらいで、和歌山市内で保健所が営業許可をだしている飲食店は 3,000～4,000 店あります。これらの事業所は、本来事業系ごみですべて出すべきです。実際、事業系ごみで出しているのはどれくらいですか。

飲食組合に入っているのは約５％くらいで和歌山市が中核市になって営業許可を出すようになってから 150 店に減りました。

和歌山市が営業許可を出しているのであれば、事業系ごみで出しているという証拠をどうやってとっているのか。保健所が確認しているのか。

根本的なところで、現状と問題点とその対策を考えたときに、本当に良い和歌山市にしたいのであれば、他の市町村と比べたらごみの料金はどうなのか等たくさんの問題点を押し並べて考えるべきです。

中核市として和歌山市の人口、人口密度はほぼ真ん中のはずなのに、結果も真ん中付近であるべきではないですか。基本的な中核市でやるべきことがどこか欠落しているのではないですか。

問題点をもって進めた方が良いのではないですか。

（会長）

真面目にごみを出している飲食業者が不公平にならないように適正化することは大事だと思います。事業系ごみが家庭系ごみに混合されてないかをどのように把握していますか。

保健所が事業者のごみ排出経路を管理把握するのが難しい場合、どのような経路で事業者の排出をコントロールできるのかについて、ご回答ください。

（事務局）

保健所と連携してチラシ等で啓発しています。ただそれだけでは難しいことも理解しており、収集センターと廃棄物対策課が連携してエリアごとに事業所指導として１件１件まわっています。なかなか進まないこともありますが、マンパワーで動いていることは事実です。

（会長）
現状の問題把握、現状の事業系ごみの排出の実態把握についてはおおよそできているのですか。
（事務局）
家庭ごみ置き場は和歌山市内には３万箇所ほどあります。職員や市民にご協力いただき、ここ２年ほどで、家庭ごみ置き場に事業所ごみがあれば連絡してくださいというチラシを自治会等に回覧し、チラシの効果で、毎月のように通報も受けています。収集センターと協力をして、判明した事業所に指導をおこなっています。また、各事業所の保健所での許可更新時に、事業所から出るごみは家庭系ごみではないということを口頭でも啓発しています。年々、事業所ごみの回収依頼契約件数は増えています。
（委員）
保健所が営業許可を出すのであれば、許可を出す時点でエビデンスを取って、関所で検証しなさいと言いたいのです。あとから追いかけることはしない方が良いと思います。
（委員）
この事業系一般廃棄物量はごみの排出目標量に入っているのですか。
（事務局）
この棒グラフ（資料１の６ページ）、ごみの排出量、焼却量、事業所ごみにも（事業系一般廃棄物量は）含まれています。
（委員）
飲食店のごみを家庭ごみで出していても、全体の量としては同じではないですか。
本日の話は量の話なのではないですか。
（会長）
人海戦術でチラシを配って相手の善意に依存して対策をすることは大事ですが、もっと源流側でシステマティックに対応したほうが結果的にコストも少なく済むと思いますので、適切に指導、事実確認をするポイントがあるなら、システムを作ることも大事だと思います。部署間の調整等もあり容易ではないかと思いますが、根本的に構造的に変えることも次の 10 年先、20 年先に向けて大事なことだと思います。重要な指摘をしっかり受け止めてご検討いただければと思います。
（委員）
ごみの量について紙おむつが増えている傾向です。熊本で災害が起きたときに紙おむつの処理に困ったと聞きます。紙おむつは水分を含むため、ごみの減量に逆行しているものとして紙おむつが問題化していることが顕著に数字に出ています。
現時点で、紙おむつは処理できないものとして扱っているのですか。今後どうしていく予定ですか。
（事務局）
紙おむつはポリマーで水分量を含んだ重さになるため、ごみの排出量として大きくウエイトを占めています。
全国的にもリサイクルできる方向に少しずつ進んではいますが、和歌山市ではすぐにできるという状況ではありません。
紙おむつ、ペットの汚物シートについても、できるだけ燃やすのではなく第３次計画にはリサイ

クルにまわせるように計画を進めていきたいと考えています。
（会長）
紙おむつについても、今後、高齢化とともに、重点資源、重点ごみになってくるかと思います。トイレディスポーザーという話には、なかなか進まないと思いますが、高齢者施設では自前で燃料化して燃やしている事例もあるようです。いろんな施策を検討してください。

（議事１　（１）第３次和歌山市一般廃棄物処理基本計画の策定　①生活排水編　事務局担当説明）

（会長）
ご意見、ご質問等お願いします。
合併浄化槽への転換補助は年間何件まで等、上限設定はあるのでしょうか。
（事務局）
予算の範囲内では、何件でも受け付けをする体制で臨んでいます。
（会長）
申請は毎年一定数あって、置き換えが進んでいる状況でしょうか。
（事務局）
昨年度の実績では全体で 555 件あり、合併処理浄化槽への転換は全体の 15%程度で、残りの 85%は新築となっています。
（会長）
年間 60～70 件が単独処理から置き換わっているということですね。一気には進まないですね。
表２の５にある単独処理浄化槽について現状の 73,000 人を 10 年後に 47,000 人にする数値設定については、すべて合併処理浄化槽への転換なのか、下水道への接続を増やすのか分かりませんが、今のペースで達成可能なのでしょうか。
（事務局）
達成可能であると考えて設定しております。この数字は下水道の普及も含んでおり、合併処理浄化槽への転換も加え、現在のペースを維持できるなら、達成可能であると考えます。
普及率があがれば、一定数に到達すると鈍化することも考えられ、私たちの努力で賄いたいと考えています。
（会長）
和歌山市は県庁所在地のなかで、下水道普及率が全国で下から２番目です。
少しずつ改善していきましょうという計画かと思います。
（会長）
ほかにご意見はありませんか。
これまでの計画実績を踏まえると十分目標達成可能ではないかということですので以上にしたいと思います。
全体を通して意見はないですか。

（委員）
一般廃棄物に事業系と家庭系があって、事業系の方は、実態が見えにくく末端処理になりやすくなっている、上流側でシステム的な対応を淘汰する方向性を作っていくことが、大きな論点でひとつありました。
資料２の２～３ページでお住まい別のごみの組成が見えてきたことは大きな成果でした。どこに弱点があるか空間的にも見えるようになってきました。
３ページの４区分を見て、念のために数学的に確認しますが、４地域平均のパーセンテージは重さベースの平均を出してますよね。
戸建地域①でおむつが弱点、戸建地域②は調理くず（食ロス）、ペットシート、マンションでは紙、農村地域ではあえて言うと小型家電で苦労されていることが明確に見えてきています。
フラッグシッププロジェクトとして各弱点をワンメッセージとして、一番弱点のところを何とかしてもらえるよう選択と集中をすることが良いとも思いますがいかがでしょうか。手だてはありそうですか。
（事務局）
分析し、状況を把握して、どういった行動が有効か検討を進めて行きたいと思います。
（委員）
現状では解法、手法が分かりませんが、まずはメッセージとして出すというのが重要だと思いました。
（会長）
農村地域での小型家電については、回収地点へのアクセスが難しいのだろうと想像します。
エリアごとの問題に寄り添って、画一的に地域全体で進める施策と、メリハリをつけて対象の特性ごとにおこなう施策を検討して進めていくと豊かな計画や施策になると思います。
データに紐づけて特徴ある施策を展開すると全国的に先駆けていけると思います、
着実に前進していることがわかりますので、そのあたりの創意工夫も検討してください。
活発なご意見、議論、ありがとうございました。
議事以外で、ご意見、ご質問、宣伝等はありませんか。

意見等がなしだったため、閉会となった。